聴覚的景観としての能囃子音-<庭>から<座>への転換前史

小野 芳朗

正会員 工博 岡山大学大学院環境学研究科 (〒700-8530 岡山市津島中 3-1-1) E-mail: ono@cc.okayama-u.ac.jp

近世において能は屋敷内の庭,白州上の舞台においてその囃子音が発せられた.それは城下町に流れ近世 都市の聴覚的景観(または音風景)の一部を形づくっていたと考えられる.本論では,能囃子音の発生源 の空間的構造に着目する.大名庭園,大名屋敷,武家屋敷内の能舞台の実態とその位置,そして能役者の 江戸市中の動態と,その演能・稽古の実態より<庭>に発せられた音の事例を検証する.それらは,やが て能楽堂として屋内に収容されていく能音を語るときの前史として記述される.

Keywords: Soundscape, Noh, Daimyo garden, Samurai house

1. 緒論

景観という極めて感性的な事項の問題を解く上で、 その「場」に付着している「記憶」を再現し、再構 築するという視点から、「音空間」あるいは「聴覚的 景観」の議論を展開する.「音空間」は時間的に残存 しない.音に限らず、モノでないもの、つまり感性 は残らない.したがってアラン・コルバンのとった 手法のように、歴史資料を積み上げ、実証可能な域 で議論すること,換言すれば実証的な資料をもとに 論を構成することを試みる.つまり、実証可能な事 項に基づき、時間を遡る作業をなした上での景観再 構築への道筋を図ろうとするものである.

聴覚的景観の歴史的実証への条件として,以下の 項目を明らかにする必要があると考える.①対象の 音の発生源の構造,②受容者(音に曝露される人々) の存在,③対象音以外の音環境(相乗効果やマスキ ング効果),④対象音の時間的(時代的)継続と空間 的拡散,⑤対象音受容の感性.景観と聴覚音を考え る時に以上の項目のうち,⑤の感性までを議論する に至るまでの段階に①~④の項目を明らかにする必 要があると考える.

本論では、この中で対象音の発生源の空間的構造 を中心に論考を進めることとする.時代は近世を中 心に、対象音として能の音にスポットを当てた.能 を取り上げた理由は、その物語が伊勢・源氏・平家 物語に拠る演目が多いこと、また歌舞伎・浄瑠璃の 題材の基となるものが能であり、武家・公家から町 人・農民までテキストとして共有されていたと考え るからである.

また発生源としての場は,網野善彦の指摘を援用 し、<庭=ば>¹⁾として大名庭園や武家屋敷を取り 上げた.大名庭園は地方においては大名の城郭の中 にある大名の独占物であったかもしれない.しかし、 記録を読むと大名が必ずしも個人の楽しみとして利 用しているのではなく、家臣や御客、出入りの商人、 芸人など城中では会うことのできない人々との交流 もある.また,備前岡山藩の御後園(明治四年後楽 園と改名)では、藩主の江戸在府中は町人農民に庭 園を開放し見学させている²⁾.また藩主によっては こうした庶民を庭園中に招き、能舞台を楽しんでい るケースもある.網野はそうした単なる今日的な鑑 賞する「庭=にわ」ではなく、利用され様々な芸能 が繰り広げられる動態としての空間を<庭=ば>と よんでいる.

こうした空間的な音の発生源の<庭>が近世に町 人にも解放されていた庭園や白州上にある能舞台の 実態,近代に至ると屋内化され<座>となる空間的 構造変化を事例をあげて論考する.聴覚という実態 が残らない感性的な事象を実証することの資料的限 界を前提に,本論では発生源の存在を,岡山大学附 属図書館に残る藩政史料,池田家文庫中の文書と図 面,また刊行された『梅若実日記』にみる能役者の 行跡から検証することとする.

2. 聴覚的景観論と能楽史研究の演者と観客

景観学の視野に音の空間を導入することは、いわ ゆるサウンドスケープ論として成立してきた. R.マ リー・シェーファー [R. Murray Schafer]³⁾のサウン ドスケープの取り上げる対象には、水の音、風の音 のような自然音、鳥の鳴き声や虫の羽音のような生 命音がある.人工音、生活音にも鍛冶の槌の音や教 会の鐘、牧場の羊飼いのホルンなど、これらの「ハ イファイな音」の存在をうたったのち、これら心地 よい音が産業革命以後の機械音、とくに内燃機関に よる騒音「ローファイな音」にとって替われらたと いう.

感性の歴史家とよばれるアラン・コルバン[Alain Corbin]はその著『音の風景』⁴⁾で,音と人間の関係を歴史的に描写する試みをなしている.それは教会の鐘という「生活音」である.フランスの田園地帯には数万にのぼる鐘楼があり,村落共同体の生活と密着していたことは,それが実用的であるがゆえにこそ,大きな風景の構成要素となっていた.

日本の歴史を失われた事項から再現しようとする 渡辺京二が『逝きし世の面影』⁵⁾で,外国人によっ て目撃されたかつての日本を著わしている.そこに は風景として「音」も鳴らされている.町には雑多 な物売りが居た.こうした物売りの呼び声,鳴り物 の音が都市の路上の「音」であった.また労働の際 には歌が必ずあった.花見は今のような喧騒などん ちゃん騒ぎではなく,寛政の頃は歌,浄瑠璃,踊り, 俳諧,狂歌などの光景をなしていた.

また中川真は『平安京 音の宇宙』⁶⁾で京都という都市の音空間について「源氏物語」や「枕草紙」から聞き取れる音の解析や,京都の町中の日常の音, 祇園祭の囃子の音の記憶性について述べている.

こうしたサウンドスケープ論の地平に,近世の音 として能の舞台空間とそれを鑑賞する者たちの感性 を描くことができないかが,本研究の目指すところ である.

能の音の発生源とその伝搬を知る上で,舞台の空間的装置,その演者と観客などは重要な手掛かりとなる.芸能史分野においてなされてきた能研究は「文学作品としての能」の解釈が多い.それは研究者が国文学出身者が比較的多いためであろう.実際に演じられた舞台上での「演劇としての能」の歴史に言及するものは未だ少ないのが現状である.近年,歴史学者の中から地方城下町の藩政史料や神社文書をもとに,演能の実態と演者の実像を明らかにしようとする研究が出てきている.

近年明らかにされた賀茂別雷神社文書(上賀茂神 社文書)中に書かれている「御戸代能」の分析を行 った五島⁷⁾は、京都の禁裏出入の能役者の実態を、 町方の役者であった事を明らかにしている.京都に は観世流の片山家(現在の片山九郎右衛門)、金剛流

の野村家(現在の金剛宗家)のように四流の役者が 居住していたが、それらはたとえば野村家が阿波藩 に出仕していたように, 京都外で活躍していた. 禁 裏御所出入は、川勝家を代表とする町方の役者たち で、彼らは町人の富裕層が謡や舞をはじめ、やがて 職能化した者たちという. もっとも四流の京都在住 の役者たちも、その源は元禄の町人の間に流行した 能の中で町役者が形成され、その中から江戸時代中 期以降に四流の家が形成された事を宮本が指摘して いる8). 宮本の研究は近世能研究の役者の実像に迫 る上では秀逸の大部作であり、多くの文書を渉猟し たものである. そこにはたとえば, 正徳四年(1714) の二条綱元の日記より尾形光琳が二条家の能役者で あった事など, 禁裏や公家屋敷での能の記録を明ら かにしている.また中世の京都での勧進能について は能勢朝次の『能楽源流考』。)に詳しいが、 宮本は 江戸期の洛中洛外の勧進能についても、4~7日間な どにわたる記録をまとめている. それらは三条や四 条の河原, 御霊社, 北野天神社などにおける観世太 夫, 宝生太夫や, 梅若, 春藤, 進藤のような能役者, そして町方の能役者が勤めている様がわかる. 観客 がどのような構成であるかはわからないが、能音が 河原や神社から発生していたことは明らかである. 宮本はこの他,和歌山県立博物館所蔵の紀伊徳川家 の能役者の系譜を文書より読み解き明らかにしてい る.

また神原は岡山池田藩の御後園における元禄から 正徳の藩主池田綱政の晩年7年間の演能記録と観客 の動員数を「御後園諸事留帳」より明らかにした¹⁰⁾. さらに西脇は「留帳」に加え、岡山大学所蔵の池 田家文庫中の「日記」「日次記」より池田綱政治世時 の能の記録より、能役者の実態を明らかにしている¹ ¹⁾.元禄期、能の全盛時代が訪れるが、その場の役 者は主に江戸、京都に在住する職能集団であり、彼 らが参勤交代で江戸と国許を往復する藩主に従って 移動していることがわかっている.

幕末の江戸の能役者の日常が、明治期の能楽復興 の要となった梅若六郎実の日記が翻刻・刊行される に及んで明らかとなった.『梅若実日記』¹²⁾は嘉永 二年(1849)から明治41年(1908)にかけての六郎実の 日々の記録であり、能興行、稽古、遊興など幕末か ら明治にかけて、御用役者であった彼らがどのよう に変遷していくのかを示した1次資料である.

このように歴史学の中で能役者の実像に迫る研究 が主に藩政史料,神社文書を中心に分析が始まって きたといってもよい.それは従来の国文学的芸能史 研究が歴史学的分析手法を取り入れることで,史料 の解読作業が進むにつれて演じられる場と,そこで 起きた能ばかりだけでなく宴の饗応や,その接待の 模様,町人を含めた観客の実態などが明らかになっ てくる可能性がある.ただし,史料的制限はその藩 政史料の解読にある.岡山藩のように公的な藩の資 料が岡山大学でマイクロフィルムで公開されている ケースは比較的恵まれており,一方で藩主近辺の私 的生活に伴う資料は岡山市の林原美術館に所蔵され 公開されていない.林原美術館で昨年度から調査が ようやくはいったが,なお不明の事象も多く,近世 に関する能研究は課題が山積しているといってよい ¹³⁾

また能を見た側の記録はほとんどないといってよ い.大名家の演能記録には、本論でも紹介するよう に藩主やその周辺が見たという記録が発掘されるよ うになったが、町人や農民となるとほとんど記録が ない.地方史や民俗学分野で地方文書の調査時に「謡 本」は分類「その他」で収集されること多いことか らも¹⁴⁾研究者の関心にかかっていないようだ.能の 音の発生源と、音の発した事実をもとに、それから 先は物語を「共有した」という事象を延長して音の 広がりを「想像」するしかないというのが実状であ る.手法として考えられるのは、文学者の随筆に鑑 賞した記録があるが、これもバイアスがかかってい ると考えた方がよい場合が多い.

たとえば、俳人高濱虚子は郷里松山で「春の桜の 盛頃に阪の下といって東雲神社の石段の下を通って 居ると自分の遥か頭上の松林の中に当って、カン、 ポオという大小鼓の音が春先に酔ふた人の耳に,溶 け込む様に響いたものである.」15)と書いているが, 虚子の実父池内信夫は松山藩の祐筆で、維新後松山 の能の復興に力を尽し,実兄池内信嘉は古市公威に 誘われて明治30年上京し、能楽復興に尽力する家系 で, 虚子自身も高濱清の名で能を演じる. 能音を耳 にすることに敏感であることは否めない. また谷崎 潤一郎が京都金剛能楽堂で金剛巖をみて, その金糸 銀糸の装束や能面の美しさを『陰翳礼讃』¹⁶⁾の象徴 的事象としてえがいているが、これも近代的な屋内 空間における陰翳であり、近世は屋外にある舞台で 昼間に演じられるため明るい場でみている. 谷崎の 視線は歴史的なものではなく、近代的な視線である とみてよい.

以上のように、聴覚的景観の事象として、芸能の音 を取り上げた場合、それが能の場合、近世における 発生源、つまり舞台と役者についての研究事例は限 られており、その研究の展開が始まったといってよ いのではないか. 観客の実像についてはほとんど実 態が不明とかんがえてもよい.

3. 近世の能音発生源の事例

(1) 岡山藩の庭園

近世都市において武家屋敷内に「能舞台」が存在 したことは、その興行記録から推定はできるが、そ れが様式通りの能舞台であったかどうかは明らかで ない.また屋敷内、あるいは城内家屋中に舞台が設 置されている場合は絵図上からその存在を判別しが たい.屋根を戴いた能舞台の様式から、本来屋外や 庭園中に独立に建設されたことが推定できる.現在 の屋内の「能舞台」(すなわち「能楽堂」)が屋根を 戴いているのは、庭園内に存在した「能舞台」の様 式を引き継いだものである.舞台周囲の白砂利は、 かつての白州の様式を残しているものである.白州 に能舞台が建てられることが多かった.白州の舞台 脇正面には、町人や農民の席として位置づけられ、 現在みられる能楽堂の観覧席とみることができる.

たとえば江戸城では「町入能」として庶民にも能 興行を解放していたこともあり、本丸入り口にその 存在が見える.この能舞台は、本丸の表に入ったす ぐの白州の庭の中に建てられた屋外のものである. 大名たちの詰め所であった大広間から観覧する構造 になっている17).もうひとつ、能舞台が本丸中奥に 確認できるが、ここは白州の面積が著しく小さい. したがって、多くの者に公開する場ではなく、これ は将軍御側の者のためのものと考える. その他, 地 方都市の城中のものとして, 姫路城三ノ丸の屋外に 確認できる¹⁸⁾.肥前鹿島城本丸高津原屋敷内の屋外 能舞台19),二条城二の丸の寛永時の図面にも御広間 から観覧する舞台と楽屋が記されている20).また禁 裏御所中に寛永の絵図では東の御学問所の外の庭に 能舞台が見える(小堀遠州作事)が、延宝時の火災 後,岡山藩が単独で修復した延宝の改築後にはこの 東側の空間は池水を備えた庭園となる. 禁裏では盛 んに能の興行が行われたが、その能舞台は建物内へ 吸収されたらしい²¹⁾.伊予松山城でも能舞台が三ノ 丸に完成していることが記録からわかるが、建物内 にあったようで,図面上からは同定できない²²⁾.

その池田家の国元,岡山では藩主綱政の時代に城 東の旭川を隔てた御後園(現在の後楽園)において 能が催された.御後園は元禄二年(1689)春に一応 の完成をみて,その年に田植祭が催される.そして 元禄四年に園内の御茶屋で能が催された²³⁾.

元禄四年(1691) 閏八月十四日の「日次記」に記事 には,

 一 今日於御茶屋ニ初而御能被遊ル,池田大学・日置猪右 衛門・池田兵庫・小仕置・近習・物頭拝見被仰付,辰中刻 初り申下刻相済

とあり、午前八時に始まり午後五時前に終わった. 番組は「邯鄲」「野々宮」「小原御幸」「松風」「放下 僧」「三井寺」「船弁慶」.このうち綱政自身が「邯鄲」 と「船弁慶」のシテ²⁴⁾を,実弟の鴨方藩主信濃守政 言が「野々宮」「放下僧」を,残りを能役者と思われ る者がシテを勤めた.御相伴したのは池田大学のよ うな家老以下,側近の者共である.この御茶屋は園 内の藩主の居所,「延養亭」付近であったとおもわれる. 当初は座敷を使っての能であったとおもわれる.

その後,元禄八年(1695)岡山城本丸表書院内に 能舞台が作られ,能の興行は約12年間そちらへ移る. 岡山大学池田家文庫中,元禄年間の城内絵図²⁵⁾には 庭園に能舞台が描かれている.大書院である「招雲 閣」十三畳が綱政の執務室になるが,そこから庭園 へ抜けると能を観覧する造りになっている.

綱政は 70 歳となった宝永四年(1707),御後園に 新たに能舞台を建設した(図-1)²⁶⁾.図中,斜めの 廊下(橋掛)が見える構造物が能舞台である.その 上方の座敷が「延養亭」という藩主の御座所であり, さらに上方の庭園に臨んでいる.能は舞台の右方,

「栄唱の間」より拝見された.舞台左方の建築群は 御後園の役所,奉行たちの仕事場であり宿所である. 同年九月二十二日²⁷⁾,舞台披きの能番組は,辰の刻

(午前八時)より「翁」,「高砂」,「田村」,「江口」, 「芦刈」,「鞍馬天狗」,「邯鄲」,「金札」.間に狂言を 五番入れて,申の刻(午後4時)に終了した.「江口」 は綱政の十八番であり,彼の残した「諷形図」には 自筆で「江口」の君の船より下りた場面とその詞章 が書かれている²⁸⁾.

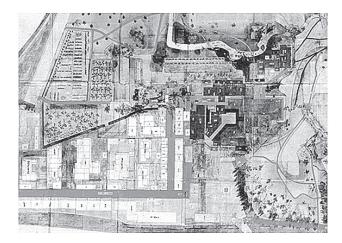


図-1 御後園の能舞台

正徳年間,池田綱政晩年の図面と推定され,当時の空間構 成をほぼ正確に表しているものと考えられる.(岡山大学 所蔵特殊文庫,資料掲載許可岡大情サ第49号)

このときから綱政が亡くなる正徳四年(1714)までの7年間の興行記録が「御後園諸事留帳」に残されている²⁹⁾.その数145回,ほぼ一月に2回の頻度で興行している.能組には綱政自らがシテを勤めたものも含め,辰の上刻(午前7時)から申の中刻(午

後4時)まで狂言を含めて約12曲を演じた.これら に招待されたのは家老や士分,その家族,出入りの 商人に加え,城下の町人,農民の男女が大量に招じ られる.その数は400人から1000人で,男性よりも 女性が多い時も頻繁にある.この観客がどこに座っ たのか.先の図-1をみると,身分ある者は舞台周囲 の建物の座敷に収容されたことは想像できるが,町 人や農民の着座スペースである白州が図面から1000 人を収容できるものとは考えられない.脇正面白州 空間を多くとれるほど橋掛が長く描かれているわけ でもない.

この能舞台はその後,綱政の継嗣,池田継政の時, 建て替えられる.享保十七年十月十七日「御城に有 之候崩御舞台,御後園ニ取立候様,万代団右衛門・ 谷川一之進・千賀万右衛門江被仰付候,」とある.城 中舞台の移転を指示したものである.同年十一月晦 日,「御柱立有之,古御舞台御取立ニ付,御規式無御 座ニ付,奉行,役人平服」で御神酒,御熨斗を供え た.この作事は十二月十七日になって「御日柄能, 御舞台御上棟御座候」と完成した³⁰⁾.

享保の図面³¹⁾の能舞台周辺も同様の広さの白州 空間がみえる.継政は能興行を町人に開放しなかっ たため、彼らを収容するスペースを作らなかったと 考えればよいが、正徳の図面は綱政晩年のものとさ れ、その収容スペースが狭いのは、「留帳」記録の招 待人数と比較して考えにくい広さである.考えられ るのは、観客は交代したことである.これは江戸城 本丸の町入能が午前と午後が交代だった例が記録さ れ(宝生九郎)、御後園でも何回かに観客を分けた可 能性がある.もうひとつは舞台を囲む建屋の外側か ら観た、あるいは聴いていた観客が多かったのかも しれない.

城中の庭における能舞台を発生源とする能音は, 白州空間に招じられた人々は直接聞き、あるいは観 たものであった事例をみた. 能の音はその囃子の音 の大きさ, 謡の大きさなど空間的にある程度大きな 広がりをもつと考えられる事は想像できる. 岡山の 御後園の周辺は,西側が岡山城下である.城内には 武家屋敷と町人町がサンドイッチ状に南北に並んで いた. 東側には上道郡の農村地帯が広がり, また山 陽道が東側を北上していた.東南部は門田屋敷とい う新規に開発された武家屋敷群である.これら半径 1 kmの城下の町や村に月に二回の興行の音が聞こ えた、という記録はみつかっていない.後の記録で 後楽園の音の伝搬距離を推しはかることとして、明 治時代の内田百閒の記録を参考にしてみる³³⁾.後楽 園の鶴の鳴き声を毎朝聞いたという百閒の記録は, 彼の自宅が後楽園付近にあり, 鶴が園内のどこで鳴 いていたのかはわからないが,近くて 300m, 鶴が延 養亭付近にいたとすると800mの範囲となる. 能の囃

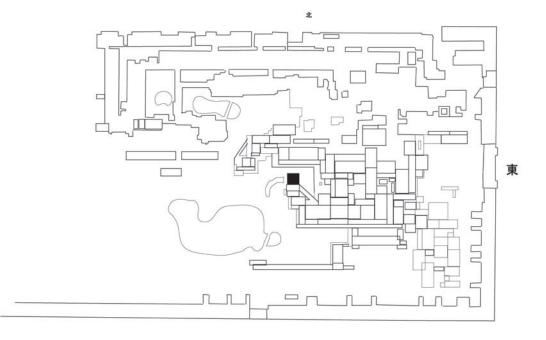


図-2 池田家江戸上屋敷(小野芳朗トレース)

子の音は鶴の鳴き声と同等か,あるいはそれ以上の 大きさと思われるので,これくらいの範囲には聴こ えていたと推測される.能舞台の位置から 300 から 800m ならば城下の町には風向きにもよろうが,聴こ えていたと考えられる.

(2) 江戸上屋敷の事例

それでは能舞台から発せられる能音を曝露される 条件として,観客が席に着くための空間,白州につ いて江戸市内の屋敷の例を考える.

備前岡山藩主池田家の江戸上屋敷において,五代 将軍綱吉への代替わりのため,老中を接待するため に二つめの能舞台を建設したという記録が残ってい る³⁴⁾.池田家上屋敷は江戸城大手門付近,現在の 地図上では東京駅丸の内の「丸の内ビル」の場所が そこにあたる.

その屋敷内の図面を 図-2^{3 5)}に示す.この図には 能舞台が図面中央■に記されている.常の興行や稽 古がこの舞台を使ってなされたものと考えられる. 延宝の老中接待には、この他に仮舞台を造作した. 記録によれば、延宝八年(1680)十一月「同五日縄張 仕之廿四日到作事初ル十二月十九日切組仕廻当二月 朔日出来」とある.翌九年(1681)にできた舞台は、

御書院前弓場所之西ニ構之三間四方.外ニ半間ニ三間之付 御露し.一間半に三間の後座.者しかか里七尺ニ五間.楽 屋三間梁ニ六十六間.三間五間のかか見の間に五間の用事 場 を馬場3リ西御座縁江楽屋構へ西御座敷 所ニ構之 舞台可か見の間ハ可け寿ての約束ニ仕之 楽屋并用事場

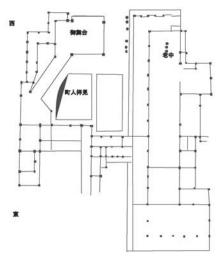


図-3 池田家上屋敷仮設能舞台(小野芳朗トレース)

ハ御能過毀之約束仕之34)

とあり、小書きには仮舞台とともに、三間四方の舞 台と地謡座、囃子方の座る後座、橋掛、鏡の間、楽 屋、用事場(作り物を組み立てる場所)の大きさが 書かれている.これは、図-2の上屋敷の図面で見る と、既設の能舞台の下側、大きな池の右に見える空 間に、図面上、北側の廊下のある座敷を正面席とし て建設された.

この接待は、同年二月十二日、時の老中であった 稲葉美濃守正則、堀田備中守正俊、板倉内膳正重種 が主賓であり、前老中、留守居役、その他旗本・御 側衆が客であった.老中より御盃を下された者共は 家老の池田大学以下十四名.その着座の様子は、こ の延宝の将軍代替の招請記録には残っていないが, 次の六代家宣の代替であった宝永七年(1710)11月16 日の池田藩上屋敷における図面から推定できる. 宝 永度のものを図-3 に略記する³⁶⁾.能舞台の正面, つまり「階」の正面の位置に主賓が着座し、以下主 賓の左へ居並ぶ. 主賓の右側は, 屏風を以て仕切り がなされ、そこでは屋敷の御相伴衆、つまり女性達 が観覧した.舞台脇正面の白州上には「町人拝見所, 下に板を敷き畳を敷く」とある. 白州は町人の拝見 する空間として位置付けられる. つまり, 仮舞台の 建設は老中招請能のときに町人を招待するがために, 池田家の常設舞台の他に作ったと考えてよい.常設 舞台は藩主の私的使用のものであり, 図-3 に見るよ うに白州空間は小さい.そのことは鏡の間と三間四 方の舞台をつなぐ橋掛の長さにも表れている. 仮舞 台では町人用の白州スペースをもったがために橋掛 も長くなっている.

当日の番組は,式三番で「翁」を観世三郎二郎,「三 番叟」を鷺仁右衛門,「弓八幡」同じく三郎四郎,「船 弁慶」喜多七太夫のところ,腫物でき欠勤.俄かに 「兼平」金春八左衛門,「井筒」金春太夫,「船弁慶」 は観世久米助左近実子童形とある.その他,脇方に春 藤源七,進藤権右衛門らが呼ばれている.当時の江 戸在住の太夫家筋の能役者が動員されていることが わかる.彼らの装束は「烏帽子素襖」の正装であっ た.

御老中御着座被成.長熨斗鮑出之浅野瀬兵衛持出之.此時 戸田備後守御誘引 殿様御老中列座之半へ御出.今日御出 之御一礼被仰之.熨斗鮑三方撒之即刻面箱持出之申楽初ル.

この短い記録は宴の始まりを簡潔に書き切っている. 御客のひとり戸田備後の誘いにより藩主池田綱政が 挨拶をなす.そして三方に乗せた熨斗鮑を撒くや, "翁"と"三番叟"の面である白色尉と黒色尉が入 っている面箱が持ち出される. 面箱は客席で持ち出 されたと読める.そして殿様の手から縁側の下で控 えていたであろう「翁」の出演者,"千載"あるいは 面箱持の役に渡され、彼は「階」を上がり、舞台に 座っている"翁"役の観世三郎四郎に手渡す.「階」 は飾りではなく、座敷にいる御客の空間と舞台を白 州でつなぐチャンネルであったと考えられる37). この老中招請時の能は機会としては将軍代替という 稀なケースではあったが、江戸市中の大名屋敷での 能興行の様子を伝えている. その配置は囃子や謡の 音の空間を表わし,番組は音の種類を同定すること が可能である.番組の中途から延々と料理が饗応さ れるのであるが、空間を埋めた音は御囃子と謡であ り,町人も脇正面に陪席した.

この屋敷の位置が現代の丸の内ビルに相当するこ

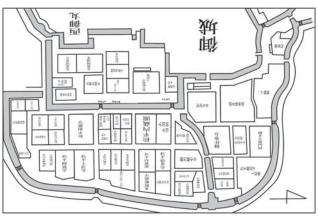


図-4 大名小路(小野芳朗トレース)

とは先述したが、図-4 に示す慶応元年の江戸切絵図 によると³⁸⁾、馬場先濠に沿った馬場先門と和田倉門 の間にあり、池田家の上屋敷(松平内蔵頭)は、堀 に面した道に沿って、絵図の縮尺をそのまま適用す ると南北100m、東西200mの敷地だったと推定できる.

一方,岡山大学池田家文庫所蔵の「江戸御屋敷・ 御向屋敷絵図」元禄十六年(1703)は升目の紙に屋敷 配置図を描いたもので,その縮尺を信用できるもの としてみる.常設の能舞台(図-2の■)は南北の敷 地のほぼ中央にある.仮設舞台の位置は,屋敷の境 界まで約 25mの位置にあったと推定され,これが屋 外であることから,老中招請の数日間の興行の様子 は,屋敷外の「大名小路」という御曲輪内の町へも 聴こえたことが想像できる.

このような老中招請の能は、他の大名家でも行わ れ,その為に老中の日程確保に各藩が神経を使い, キャンセルや早々の退席も記録されている.町人も それなりに上屋敷に招待されたとすると、かなりの 能の興行が町人も含めて経験したと推定できる.ま たこうした町人を招じた町入能の記録は江戸城本丸 におけるものは、池内信嘉の『能楽盛衰記』37)にも 紹介され知られたことではあるが、大名屋敷内での 記録が明らかになったことは、他の大名家を含め、 将軍代替わりのような慶事には町人を招聘した興行 がなされ(池田家文庫の記録ではその後の将軍代替 わりの老中招請記録も残っている),仮舞台を建設し て直接町人が見聞きする機会があったことがわかっ た. そして別に大名屋敷内に能舞台が常設されてい ることは幕府式楽としての能の興行があったこと, あるいは稽古としての囃子や謡の音の発生源が江戸 市中に点在していた事を窺わせる一端となる事実が 明らかとなった.

(3) 江戸市中の能の音

それではどれくらいの能音が江戸市中に点在して いたのであろうか. 江戸市中は大名・旗本をはじめ として武家屋敷が大きな面積をしめていた.そうし た武家屋敷内では能を稽古として,あるいは座興と して,そして正規の接待や法事・御祝儀としてなか ば日常的に「能の音」が鳴っていたと推測する.「能 の音」とは,素謡の場面での「謡」,あるいは御囃子 の場での「笛」「小鼓」「大鼓」「太鼓」,そして「謡」, そして御能の場面でのそれらの囃子と謡の音のこと である.素謡,舞囃子,御能は目的により演じられ る場面が異なるが,日常的には謡や囃子の楽器の稽 古がなされていたと考えられる.

こうした音が市中に屋敷内から漏れ聞こえていた としても、どれくらいの頻度であったのかを推定す ることが可能であろうか.ここでは、幕末の能役者、 梅若実(六郎)の日記を頼りに、彼が毎日どのよう な行動をとっていたのかで、彼のような能役者が江 戸市中に住まい、活動していたという積算を推測す ることによって江戸市中の能の音に触れてみたい.

梅若実(みのり)は隠居名で六郎は梅若家世襲の 名である.文政十一年(1821)上野寛永寺用達鯨井平 左衛門の嫡男として生まれ,観世流ツレ方梅若六郎 家へ養子ではいり,嘉永六年(1853)六郎氏実となる. 明治の能楽衰亡の時期にあって東京に残り,岩倉具 視らと能楽復興を手掛けた人物で,能楽史的に重要 な人物である³⁹⁾.彼の日記により,江戸市中への能 の音の動きを推測したい.

梅若六郎実は、稽古を観世宗家に出かけ受けてい た. 表-1 に嘉永三年(1851)の六郎実の九月から十 二月の記録を列記する40).日付の次欄は梅若実の出 かけた先で名前はその屋敷である. その右の欄は自 宅を訪問してきた者の名をあげた.能役者は年中い ずれかの武家へ出稽古に出かけたり、自身の稽古で 出かけたり、あるいは自宅に稽古の訪問を受ける. そして時として幕府や大名家の能の催事に向けて集 中的に稽古し、リハーサル(申合)を経て本番を迎 える. 梅若六郎は幕府式楽としての能の太夫家筆頭 であった観世家のツレ方であったがため, 出演とな ると観世宗家とともに参画するのが常であった.し たがって、表にみるように「師家稽古」とは日常の 六郎実の稽古が時折あるのに対し、何日か連続して あるとそれは江戸城本丸における能の催しであった りする.この時期の江戸城本丸では、九月五日の有 徳院(八代将軍吉宗)百回忌が表の能舞台で行われ た. その他, この嘉永三年には三月二日に公家衆御 馳走(本丸表舞台),四月廿日西丸中奥舞台,同廿三 日同所, 五月九日宮様御馳走(本丸表舞台), 同十五 日本丸中奥能が記録されている.本丸の表における 能舞台は公式行事の時に使われるものであり、中奥 や西丸奥は将軍家の内輪での能である.

将軍家御用以外にも,この年,複数の大名家の能 や,十月廿六日のように済海寺での能がみられる. その他、神保・小笠原・中川・美濃部・大沢・根岸・ 鵜殿・田中・加藤・遠藤などは六郎実が出稽古に参 上している武家である.稽古には礼金が下されるか らこれらの武家は六郎実の収入源でもある. こうし た出稽古は謡であったり, 囃子の稽古であったりし たようだが、時に出かけて行っても当主の都合によ り中止になることもあり,また六郎は複数の家を廻 る日もあった.また六郎自身の稽古として、観世流 宗家(師家)の他,山階滝五郎宅へ通っている.そ の他、自宅へ稽古に来る者も記録されており、それ らの名前が記されている.このように、この年23歳 の若い能役者は江戸市中を廻り、「能の音」を発して いた.彼のこの年の娯楽といえば両国の花見,亀井 戸・向嶋へ遊んだこと,浅草猿若三丁目へ芝居に出 かけたこと,尾張徳川家隠居逝去につき鳴物停止で 生業ができずに鎌倉へ大仏参詣に出かけたことくら いで、あとの日々はいずれかで能に関わっていたの であった.

安政五年(1858), 六郎実 30歳の年, 彼の出稽古 は激減している41).江戸城における能は、御奥(中 奥)における御囃子(一月十八日,二月二日,二月 十八日, 三月十八日, 同廿五日, 十二月廿五日) と 勤め、十月朔日には将軍代替の御祝儀能(十四代家 茂)で本丸表舞台に出勤,十二月二日将軍宣下大礼 の能に同所に出勤.他は田安御殿の昇進祝儀能他は 目立った出稽古もなく、もっぱら宗家に稽古に出か けることと,幸五郎次郎(小鼓の家)宅へ頻繁に稽 古に出かけている. 幸家での稽古がツレ方²⁴⁾として の稽古なのか、鼓の稽古なのか不明である. この 年はコレラが大流行する.安政の虎列刺は江戸市中 で10万あるいは26万人の死者を記録したとされ る42). 六郎実の日記にも同年八月廿五日に「甚敷疫 流行」とあり,長崎で蘭医ポンペが見たコレラ43)は, 七月八月の暑い時期には江戸市中で猛威をふるって いた.おそらくこのために武家では交流を控えてい たのではないか. さりながら六郎実, この年は御呼 ばれが少ないためか,浅草へでかけ,楊弓や芝居, 芸者と思しき者を呼んでの食事を盛んに経験してい る. この安政五年はそのような事情で伝染病という 特異的な状況下にあり、おそらく江戸市中の能の音 は少なかったと考えられる. この翌年から六郎実の 活動は旧に復して忙しくなるのである.

慶応四年(1868)は彼ら幕府の太夫家筋の能役者に とっては大変の年であった⁴⁴⁾.すでに大政は奉還さ れ,鳥羽伏見で徳川軍の敗北が決まっている.上方 での事情を知らず実の日記には,慶応四年正月朔日 を「晴天.誠ニ長閑」とある.しかしこの年はほと んど彼ら能役者の仕事はない.しかも二月五日鳴物 停止の令がでる.その理由も期限も示されず「日合 之義ハ無之.追而御沙汰迄之由」であった.そして 四月十四日官軍大総督有栖川宮が江戸城西の丸へ入 城との記録がある.江戸無血開城である.五月十五 日上野彰義隊の戦ののち,江戸は平定され八月九日 東京と改まる.九月九日明治と改元.梅若六郎実 41 歳の年,鳴物停止は収まったものの,自宅での稽古・ 袴能程度しかできない有様であった.

嘉永三年を例として,実が能の勤めで通った場所 の総計は江戸城中を含めると,42カ所である.この うち,観世宗家は当然ながら,稽古,申合のため54 回,ついで小笠原佐渡守,田中唯一,大原主馬,神 保伯耆守,美濃部筑前守などの武家屋敷が各々17~ 20回通っている.この回数は年によって事情が変わ り,かつ能役者の成長とともに通う場所も質も異な ってくると考えるべきなので,数は統計的数字とは 考えにくい.目安程度であろう.

ちなみに幕末にどれくらいの役者がいたのであろ うか.明治維新で朝廷に差し出した幕府御抱えの役 者は、 喜多流, 観世流のシテ・ツレ・ワキ・狂言・ 囃子方²⁴⁾ 合わせて 79 名の名前がみえる⁴⁵⁾.この 他,金剛,金春,宝生太夫にも役者が存在したので, おおよそ総計 200 名前後が存在したであろうか.彼 らの業態と、個人の動きが数えられないので単純な 計算は不可能だが、毎年200人前後の役者が、年数 +カ所を複数回にわたり移動し,能本番や申合,稽 古をなしていたと考えられる. これらは幕府御抱え の役者であるので、各藩にも専属の役者(必ずしも 太夫筋ではなく,家臣の中から能方として抜擢もし た)が延数十人の単位で存在していたと考えられる. (数十人という単位は、能組一曲あたり20人前後の 人数が舞台上と舞台裏で必要であり、それが一日5 番から7番あるため推定される規模である)具体的 に江戸市中のどの場に屋敷があったのか同定するこ とが困難なため,地図上に表現できないが,数量的 にはかなりの頻度の能音発生の機会が江戸市中には あったと推測される.

4. 近代の能音空間の屋内化

太夫家筋(観世・金剛・金春・宝生・喜多)のプロ集団の仕事場は江戸が中心である.全国の武家が 集中する町が演能センターであった.それが慶応四 年官軍の江戸進駐とともに,能役者の解雇となる. 一部の者は朝廷に仕えることを希望し許されるが⁴ ⁶⁾,朝廷がスポンサーとなるには余裕もなく,事実 上の休業状態が明治元年を通して続く.そして明治 二年の紀州赤坂藩邸の能興行は短いながらも,久し ぶりの囃子の音を江戸市中に流したことになる.

その明治二年(1869)七月二九日,英国皇太子を 迎えた紀州赤坂藩邸では,宝生九郎の世話により,

「弓八幡」喜多勝吉,「経政」観世鐡之亟,「羽衣」 宝生九郎,「小鍛冶」金剛唯一が能舞台を勤めた.た だし「御急ニ付」 夫々半分だけ舞う半能であった. それでも「鐡之亟殿初而ノ御用ニ付悦ニ廻ル」47)と ある. 戊辰の年, 官軍の江戸進駐以来途絶えていた, そして明治政府になって初めての公式の能興行に失 職にあえぐ太夫家筋の能役者が呼ばれたのである. その後、明治政府により能は復興の途に就く.しか し、それを担った階層は旧公家・大名であった.米 欧を回覧した岩倉具視は、明治5年(1872)パリ郊外 ベルサイユ宮殿に至りオペラを観る. こうした芸能 を文明国は持っていて、それを国家(すなわち貴族 層)が経済的に支えている. それを日本も持つべき だと岩倉以下観覧者たちが考えたことは想像できる. 岩倉に随行し,『米欧回覧実記』を著した久米邦武は 記述する.

然るに欧州の宮殿にある,その壮麗なオペラ座を見るに至って,痛切に国民娯楽の必要を感じ,而してかかる精神上の慰藉から種々な結果を来す娯楽には,一時的流行のもの,今日あって明日なきもの,又は外来の浮ついたものでは所 謂立派なものは出来ぬ,どうしてもシツカリと国民性の奥 に根を持って居るもの,即ち日本固有の歌舞音曲でなけれ ばならぬ.若し此選択を過ったなら,国民的娯楽の欠乏か ら,日本は非常な不幸に陥らねばならぬ,と,其処で能楽 の芸術的価値を思ふに至った.⁴⁸⁾

岩倉たちの欧米回覧の途からの帰国後,梅若実や 金剛唯一(金剛太夫)らの自宅に於ける能舞台での 興行や,岩倉邸での天覧能など,単発的に能の復興 のきざしがみられる.明治9年(1876)4月4日から 6日まで,岩倉具視邸で坊城俊政の差図で明治天皇 御幸のもと能が催される.午後1時より5時半まで であった.4日のシテは「小鍛冶」を従四位前田利 鬯,「橋弁慶」を正三位前田斎泰が勤めた.梅若実は 「土蜘蛛」を勤めた⁴⁹⁾.

明治 11 年 (1888),明治天皇は青山御所に舞台を 建設し,観世清孝・宝生九郎・金剛唯一・梅若六郎 (実)・三宅庄市に宮中能御用掛を命じた(これに観 世鐵之丞・金春広成が加わる).同年7月5日青山大 宮御所御舞台開御能で彼らがシテを演じる⁵⁰⁾.

明治12年(1879)7月8日,米国前大統領グラントが来朝し,岩倉邸で午後3時より5時半の間に「望月」の半能と数番の仕舞を観てこれを激賞したとされる⁵¹⁾.

明治 14 年(1891), 能楽社の結成とともに, 芝公 園内に能楽堂が完成する(明治 35 年(1902), 靖国 神社へ移築, 九段能楽堂となる). 能楽師たちが, 流 派に関わりなく, 同じ舞台で興行することが復活す る. もともと, 四流一座とはいえ, 江戸時代の能の

表-1 梅若実の行動

嘉永3年9月から12月

基本3年 9月到日 9月2日 9月2日 9月2日 9月2日 9月2日 9月2日 9月2日 9月2			2 F D	訪問
9月2日 師家稽古 9月3日 小空原弥八郎珠、師家 傑古回卿 9月6日 標準久八郎様、小空原 佐葉守 泉田、本,如家和(有德院 株百回卿) 8月6日 標準久八郎様、小空原 佐葉守 泉日、中唯一様、 9月7日 小倉桂 9月9日 中川勘三郎珠、麦濃部筑前守様 9月9日 中川勘三郎珠、麦濃部筑前守様 9月9日 中川勘三郎珠、麦濃部筑前守様 9月9日 中川勘三郎珠、麦濃部筑前守様 9月9日 中川勘三郎珠、麦濃部筑前守様 9月9日 中川勘三郎珠、麦濃部筑前守様 9月1日 標保伯書守様、根岸支八郎様、 第二日 神保伯書守様、美濃部筑前守様 9月1日 小倉様、御田、友衛 9月1日 大沢新六郎殿 9月11日 市広之丞宅 9月19日 小倉様、小笠 原佐波守様 9月19日 小倉様、御谷 原花 漆 朝殿 株、神保 9月19日 小倉様、常日 株 朝殿 株、神保 9月21日 随家復吉 9月22日 防察稽古 9月22日 大訳主爆様 9月23日 防察稽古 9月24日 師家、西藤東左衛門、根岸英八 9月25日 防察稽古 9月26日 防察稽古 9月27日 小倉様、電台 株 朝慶 葉高筋前守様 9月28日 防察稽古 9月28日 防察稽古 9月28日 防察稽古 9月28日 防察稽古 9月28日 防察稽古 9月28日 小倉 未 衛門 9月28日 小倉 未 衛門 9月28日 小谷(古 守様、山前 新 9月29日 小倉 株 9月29日 9月29日 9月29日	寬永3年	9日胡日	<u>参上</u> 師家稽古	訪问
9月3日 小空原茨八郎珠、小空原 住康守 朝年五期美術、小宮 保護 第二 9月6日 規律英八郎珠、小空原 住康守 第二進 9月7日 小倉桂 9月7日 9月8日 理律生養 第二進 9月9日 中川勘三郎珠、妻 運都筑前守柱 第二進 9月10日 神保伯音守孫、祖岸英八郎孫、 第二進 第二進 第二進 9月11日 神保伯音守孫、和岸英八郎孫、 第二進 第二 第二進 9月11日 神保伯書守孫、王島昭、東北 第二 第二 9月11日 神保伯書守孫、王島昭、 第二 第二 第二 9月11日 中保伯書守孫、王島郎 筑前守禄 第二 第二 9月11日 中国 小倉桂、(雷太郎) 第二 第二 9月12日 中国 日吉広之窓? 9月14日 7 9月15日 神保伯書守孫、漢盧部筑前守禄 第二 9月14日 7 9月15日 神保伯書守孫、漢盧部筑前守禄 第二 9月24日 7 9月15日 御家福 第二 第二 9月24 9月15日 御家福 第二 第二 第二 9月24日 小月24 第二 第二 第二 9月26日 「日志之本 第 第二 第二 <tr< th=""><th></th><th>9月2日</th><th>師家稽古</th><th></th></tr<>		9月2日	師家稽古	
9月6日 2003年30 2003年30 2003年30 2003年30 9月6日 2月6日 9月6日 9月11日 3月11日 3月11日 3月11日 3月11日 3月11日 3月11日 3月11日 3月11日 3月12日 9月12日 9月12日 9月12日 9月12日 9月12日 9月12日 9月12日 9月12日 9月13日 9月16日 大家新大部殿 9月17日 9月16日 大家新大部殿 9月17日 9月16日 大家新大部殿 9月17日 9月16日 大家新大部殿 9月17日 9月16日 大家新大部殿 9月17日 9月18日 世英人的基集、委員部項前守様 9月18日 0月21日 3月21日 9月21日 9月21日 10月21日 3月211日 3月21日 3月211日 3月211日 3月211日 3月211日 3月211日 3月211日 3月211日		9月3日	小笠原弥八郎様、師家 稽古	
品類 日本 第二次 9月6日 中川勘三郎様、美麗部筑前守祥 9月6日 9月6日 9月6日 中川勘三郎様、美麗部筑前守祥 9月1日 神保伯書守様、根岸英八郎様、 第二進 9月12日 神保伯書守様、祝居康友衛 9月12日 神保伯書守様、大郎振支衛 9月12日 中島様、大郎北東美雷 第二 9月15日 神保伯書守様、美麗郎 筑前守祥 9月16日 大沢新六郎殿 9月16日 大沢新六郎殿 9月17日 日古広之忍宅 9月18日 規岸英八郎様、漫麗部筑前守様 9月19日 小倉様、小笠 席佐遼守様 9月20日 師家稽古 9月21日 中川勘三郎様 9月22日 小倉様、常宿 様、瀬殿 株、神保 9月23日 小倉様、電信 様、瀬殿 株、神保 9月24日 小倉様、電信 本、御慶 9月25日 師家稽古 9月26日 師家稽古 10月3日 養人橋 10月3日 大沢主馬様 10月3日 大沢主馬様 10月3日 唐秋 10月3日 唐秋 10月3日 原文金衛市 10月3日 原文金 市 10月3日 原文金 市 10月3日 原本金衛		9月4日	師家稽古	
9月7日 小倉株 9月8日 9月8日 9月8日 9月9日 9月9日 中川勘三部様、美濃部筑前守様 9月11日 神保伯書守様、祝庠英八郎様、 海之進 第月12日 門、山階湾五部株、権田遠立守 達相、小倉朱、四郎東在衛 9月13日 小倉様、電力を、空気なった 9月14日 弓丁 9月15日 神保伯書守様、美濃部筑前守様 9月16日 社 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根岸英八郎様、美濃部筑前守様 9月19日 小倉様、小笠原佐渡守様 9月19日 小倉様、小笠原佐渡守様 9月21日 中川勘三郎様 9月21日 中川酸、電路、電波 9月21日 中川酸、電路、電波 9月22日 小倉様、小笠原佐渡守様 9月23日 御様、豊濃部筑前守様 9月23日 御様、豊濃部筑前守様 9月23日 御様、豊濃部筑前守様 9月23日 御様、人営 原本衛門、秋東 9月23日 御様 第216日 神髪花 9月23日 御家稽古、 10月31日 農 9月22日 小倉様 第二章 第二章 9月23日 御家稽古、 10月3日 慶 <				
9月7日 小倉様 9月8日 9月10日 9月11日 神保伯畜守株、程库支八郎様、 第之進 第月12日 一次山階流面部株、権 田遠江守 様 第月12日 一山階流面部株、権 田遠江守 様 9月12日 一山階流面部株、権 田遠江守 様 9月12日 一山階流面部株、権 田遠江守 様 9月12日 一山階流面部株、権 田遠江守 様 9月15日 神保伯畜守株、美濃部筑前守様 9月16日 大派新六郎殿 9月16日 大派新六郎殿 9月17日 日吉広之忍宅 9月18日 程英人の部株、小笠 原佐波守様 9月21日 中川勘三郎様 9月21日 中山橋、電波 9月21日 中山龍美部 9月21日 小倉様、小笠 原佐波守様 9月22日 小倉様、雪脳藻気前守様 9月23日 師家稽古 9月24日 御家和言 9月25日 師家稽古 9月26日 小倉様、現岸 英八郎様、豊濃 9月27日 小倉様 9月28日 離殿様, 現岸 英八郎様、豊濃 9月29日 節家稽古 9月29日 節家稽古 10月3日 暦/4 10月3日 暦/4 10月3日 暦/4 10月3日 田康<左衛門		9月6日	根岸英八郎様、小笠原 佐渡守 様、田 中唯一様	菊之進
9月9日 中川副三郎様、美濃部筑前守様 9月11日 神保伯者守株、根岸英八郎様、 第之進 第之進 第月12日 門、山 陽滝五郎株、椎 田遠江守 楼 9月13日 小倉様、飯 郎之宅、小倉様 9月14日 弓丁 9月15日 神保伯者守様、美濃部 筑前守様 9月16日 太沢新六郎殿 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根学菜八郎様、美濃部筑前守様 9月19日 小倉様、小笠 原佐渡守様 9月21日 中山市三郎様、美濃部筑前守様 9月21日 小倉様、市沼 様、観殿 様、神保 9月22日 加家稽古 9月22日 小倉様、電沼 様、観殿 様、神保 9月22日 加露球 、開革 菜川 桃 孝濃 部筑前守様 9月22日 加露東左衛門、秋岸英八 山 橋 9月22日 小倉様 9月22日 加露東左衛門、大沢主 原 9月22日 小倉様 9月22日 加露東左衛門、大沢主 原 10月3日 福秋、西藤 東左衛門、大沢主 馬様 10月4日 神保人創 未見 10月5日 大沢 小郎 様 10月5日 大沢 三橋 様 10月5日 市 小郎 美 10月5日 東家 北 小郎 東 10月5日 東谷 小郎 長 10月5日 東家 北 小郎 大 10月5日		9月7日		
9月10日 納保伯香守様、根岸英八郎様、 新之進 第之進 第月12日 前214年,小宮株、商島東左衛 第之進 9月12日 112日 第月14日 月丁 12日 第月14日 月丁 第月14日 月丁 9月16日 大沢武六郎殿 9月16日 大沢武六郎殿 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根岸太八郎球、妻霊部筑前守様 9月19日 小倉株、小笠 原佐渡守様 9月19日 小倉林、小笠 原佐渡守様 9月20日 師家酒店 三郎様 9月21日 小倉林、小笠 原佐渡守様 9月22日 大沢主馬様 9月23日 小倉林、常沼 株、朝殿 株、神保 白倉守様 9月24日 藤家、西島東左衛門、根岸英八 山倉士様 9月25日 藤家 御家酒店 三郎 9月26日 藤家 御家 一 9月27日 小倉林、 二郎 9月28日 藤秋、水岸 天八郎様、田中唯 				
9月11日 神保伯畜守様、根草英八郎様、氣之進 第月12日 一、山 階滝五郎株、権 田遠江守 9月13日 小倉様、御友主、小倉様 9月14日 弓丁 9月15日 神保伯畜守様、美濃節 筑前守様 9月16日 太沢新六郎殿 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根岸天八郎様、麦濃節筑前守様 9月19日 小倉様、小笠 原佐渡守様 9月20日 防御室稽古 9月21日 中川勘三郎様 9月22日 大沢主馬様 9月22日 小倉様、常沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様、常沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様、常沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様、富沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様、常沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様、常沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様、常沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様、常沼 様、鵜殿 株、神保 9月22日 小倉様 貴之進、浅田漢 9月22日 小倉様 貴連 都筑前守様 9月22日 小倉様 貴連 貴之進、浅田美 9月22日 小倉様 貴連 貴之進、美温 9月22日 小倉様 貴連 貴之進、美温 9月22日 小倉様 貴連 貴之 <th></th> <th></th> <th>中川勘三郎様、美 濃部筑前守様</th> <th></th>			中川勘三郎様、美 濃部筑前守様	
9月11日 細酸味、藤井 で数複古 9月12日 門、山 階湾五郎株、権 田遠江守 様 9月13日 小倉株、徳太 郎之宅、小倉様 9月14日 弓丁 9月15日 神保化着守様、美濃部 筑前守様 9月16日 大沢訪六郎殿 9月16日 大沢訪六郎殿 9月16日 大沢訪六郎殿 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根岸支八郎様、養濃部筑前守様 9月21日 加倉株、小笠 原佐渡守様 9月21日 小倉株、売沼 株、鶴殿 株、神保 9月22日 大沢主馬様 9月22日 大沢主馬様 9月22日 大沢主馬様 9月23日 「「「「」」」 9月24日 「「」」」 第二部 東之進、浅田浅三部 9月25日 「「」」」 第二部 東之進、浅田浅三部 9月25日 「」」 第二部 東之進、浅田浅三部 9月26日 「「」」 第月27日 「」」 9月28日 「」 第月29日 「」 9月29日 「」 第月27日 「」 10月3日 「」 第二部 」 10月3日 「			袖保伯耆守様 根岸革 八郎様	
9月12日 門」山 階流五郎株、権 田遠江守		9月11日	鵜殿様、藤井 で 鼓稽古	菊之進
9月14日 弓丁 9月15日 神保伯書守株、美濃部筑前守様 9月16日 大沢新六郎殿 9月17日 日吉広之丞宅 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 小倉檪、小笠 原佐渡守様 9月21日 中川勘三郎様 9月21日 中川勘三郎様 9月21日 中川勘三郎様 9月21日 中川勘三郎様 9月21日 市川勘三郎様 9月21日 市川勘三郎様 9月21日 市川勘三郎様 9月21日 市川勘三郎様 9月21日 市開都様、福岸 英八郎様、中保 10月21 小倉檪 9月221 小倉檪 9月221 小倉檪 10月21 小倉木 10月21 小倉木 10月21 小倉木 10月11 小笠原水白 10月		9月12日		
9月15日 神保伯書守檪、美濃部筑前守檪 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根岸英八郎檪、美濃部筑前守檪 9月18日 根岸英八郎檪、美濃部筑前守檪 9月19日 小倉檪、小笠 原佐渡守檪 9月20日 印露稽古 9月21日 中山恵三郎檪 9月22日 大沢主馬檪 9月23日 小倉檪 9月24日 師家、西藤東左衛門、根岸英八 9月27日 小倉檪 9月28日 一級 第日 市 9月28日 「級上 10月3日 「次 10月2日 小倉檪 10月2日 小倉檪 10月2日 小倉檪 10月2日 大沢主馬線 10月2日 日々 10月2日		9月13日	小倉様、徳太 郎之宅、小倉様	
9月16日 大沢新六郎殿 9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根屋友八郎様、美濃部筑前守様 9月19日 小倉様、小笠原佐渡守様 9月21日 中川勘三郎様 9月22日 大沢玉馬様 9月22日 大沢玉馬様 9月22日 大沢玉馬様 9月23日 中川勘三郎様 9月24日 町歳、客沼 様、鵜殿 様、神保 9月25日 師家、西脇東左衛門、根岸英八 9月27日 小倉様、電沼 9月27日 小倉様、電波 9月28日 離殿様、根岸 英八郎様、田中唯 9月29日 節家宿古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 節家宿古、中川 勘三郎様、 10月41 根岸九郎兵衛様、美濃 部筑前守様 10月21 小倉様 10月31 馬様 10月41 根尾木の脂 東左衛門、大沢主 10月51 広沢主馬様 10月52 大沢主馬様 10月53 馬塚 10月64 相摩式、中川 勘三郎様 10月75 田中唯一様、根岸英八郎様 10月161 近海寺能 10月17 田田 陳子様、大部 原原 10月181 (夏辺株、小型原 10月191 大沢主馬様 10月191 大沢主馬様 <th></th> <th>9月14日</th> <th>弓丁</th> <th></th>		9月14日	弓丁	
9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根岸英八郎様、美濃部筑前守様 9月19日 小倉様、小笠 原佐渡守様 9月20日 師家稽古 9月21日 中川勘三郎様 9月22日 大沢主馬様 9月23日 小倉様、常沼 様、鵜殿 様、神保 9月23日 小倉様、電沼 様、鵜殿 様、神保 9月24日 節家 市 9月25日 師家稽古 9月26日 師家稽古 9月27日 小倉様 夏月28日 藤殿秋, 根岸 英八郎様、田中唯 9月28日 小倉様 9月29日 師家稽古、中川 勘三郎様、美濃 10月3日 青沼様、西脇 東左衛門、大沢主 10月3日 青沼様、西脇 東左衛門、大沢主 10月6日 神径位置守様、中川勘三郎様 10月6日 神径位置守様、中川勘三郎様 10月6日 市 10月18日 師家稽古 10月19日 田中唯 一様、根岸英八郎様 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 田中 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 小童成		9月15日	神保伯耆守様、美濃部 筑前守様	
9月17日 日吉広之丞宅 9月18日 根岸英八郎様、美濃部筑前守様 9月19日 小倉様、小笠 原佐渡守様 9月20日 師家稽古 9月21日 中川勘三郎様 9月22日 大沢主馬様 9月23日 小倉様、常沼 様、鵜殿 様、神保 9月23日 小倉様、電沼 様、鵜殿 様、神保 9月24日 節家 市 9月25日 師家稽古 9月26日 師家稽古 9月27日 小倉様 夏月28日 藤殿秋, 根岸 英八郎様、田中唯 9月28日 小倉様 9月29日 師家稽古、中川 勘三郎様、美濃 10月3日 青沼様、西脇 東左衛門、大沢主 10月3日 青沼様、西脇 東左衛門、大沢主 10月6日 神径位置守様、中川勘三郎様 10月6日 神径位置守様、中川勘三郎様 10月6日 市 10月18日 師家稽古 10月19日 田中唯 一様、根岸英八郎様 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 田中 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 小童成 10月11日 小童成		9月16日	大沢新六郎殿	
9月18日 根岸英八郎様、美濃部弦前守様 9月20日 師家稽古 9月20日 西家稽古 9月21日 中川勘三郎様 9月22日 大沢主馬様 9月23日 小倉様、菅沼 様、鵜殿 様、神保 16者守様 市家、西脇東左衛門、根岸英八 9月24日 師家、西脇東左衛門、根岸英八 9月27日 小倉様、 9月27日 小倉様 第 夏之進、浅田浅三郎 9月28日 藤原秋、 9月29日 師家稽古、 10月3日 唐様 10月3日 唐様 10月3日 唐様 10月3日 日 第 10月1日 10月1日 小童様 10月1日 小童様 10月1日 小童様 10月1日 小童様 10月1日 小童様 10月1日 小童様 10月1日 小童様 <				
9月19日 小倉様、小笠原佐渡守様 9月20日 師家稽古 9月21日 中川勘三郎様 9月22日 大沢主馬様 9月23日 小倉様、菅沼 様、鵜殿 様、神保 10月24日 師家、西脇東左衛門、根岸英八 9月25日 師家花古 9月26日 師家花古 9月27日 小倉様 9月28日 潮殿様、根岸 英八郎様、田中唯 校 御殿 橋、根岸 英八郎様、田中唯 9月28日 節家宿古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 節家宿古、中川 勘三郎様、美濃 10月3日 菅様、西脇 東左衛門、大沢主 10月3日 菅様、西脇 東左衛門、大沢主 10月3日 菅様、西脇 東左衛門、大沢主 10月3日 菅源様、西脇 東左衛門、大沢主 10月3日 「日、小空県 10月3日 第年 10月3日 「日、小空県 10月3日 「日、日 10月3日 「日、「日 10月3日 「日、小 空県 10月3日 「日、小 空県 </th <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>				
9月20日 師家福古 9月21日 中川勘三郎様 9月21日 大沢主馬様 9月21日 師家、西脇東左衛門、根岸英八 加倉 師家、西脇東左衛門、根岸英八 9月25日 師家電古 9月26日 師家、西脇東左衛門、根岸英八 9月26日 師家福古 9月27日 小倉様 9月28日 藤夏古 9月29日 小倉様 9月29日 小倉様、美濃都筑前守様 9月29日 師家宿古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 前家宿古、中川 勘三郎様、美濃 10月3日 曹禄株、西脇東左衛門、大沢主 10月3日 曹禄株、西脇東左衛門、大沢主 10月3日 曹禄 10月3日 西藤東右 10月3日 西藤東右 10月3日 唐様 10月3日 唐様 10月3日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月3日 田中健 10月3日 西藤 10月3日 西藤 10月3日 西藤 10月3日 唐雄 10月3日 西藤 10月3日 唐雄 10月3日 唐雄 10月3日 西部 <th></th> <th></th> <th></th> <th></th>				
9月21日 中川勘三郎様 9月23日 大沢主馬様 9月23日 協豪在衛門、根岸英八 加槎、美濃部筑前守様 9月24日 節家宿古 9月25日 阿家宿古 9月26日 阿家宿古 9月27日 小倉様 9月28日 「「「」」」 9月28日 阿家宿古 9月29日 「「」」 第月29日 「」」 10月3日 「」」 10月3日 「」」 10月3日 「」」 10月3日 「」」 10月3日 「」」 10月3日 「」」 10月4日 10月3日 「」」 10月4日 10月5日 大沢主馬様 10月6日 10月6日 10月7日 日中唯一様、根岸英八郎様 10月8日 10月7日 日中唯一様、根岸英八郎様 10月8日 10月7日 日中唯一様、根岸英八郎様 10月1日 10				
9月22日 大沢主馬様 9月24日 が倉様、着沼 様、鵜殿 様、神保 (白着守核) 9月24日 節家、西脇東左衛門、根岸英八 <u>約月25日 師家稽古</u> 9月25日 師家稽古 9月26日 師家稽古 9月27日 小倉様 寅月29日 部家稽古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 節家稽古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 前家稽古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 前家稽古、中川 勘三郎様、美濃 10月9日 椎岸九郎兵衛様、美濃 部筑前守 権 10月9日 椎尾位書守様、中川勘 三郎様 10月3日 荒桃株 10月3日 荒沼檪、西脇 東左衛門、大沢主 馬枝 10月6日 10月3日 荒沼檪、西脇 東左衛門、大沢主 馬枝 10月6日 10月6日 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月6日 10月8日 師家稽古 10月11 小笠原弥八郎様 10月12日 師家祝古、神保 伯書守様 10月11 小笠原弥八郎様 10月12日 師家祝古、神保 伯書守様 10月11 小笠原弥八郎様 10月13日 武津主郎様 10月16日 中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月17日 丁田家福古 10月18日 10月18日 10月19日 太沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東右衛門様 10月21日 市家稽古、小田 勘三郎様 10月22日 神保伯音守様、美濃部筑前守様 宅稽古 10月22		9月21日	中川勘三郎様	
山口子(株) 9月24日 師家?在面上家在衛門、根岸英八 加減、美濃部筑前守様 9月26日 師家稽古 9月27日 小倉様 9月28日 潮殿様、根岸 英八郎様、田中唯 一様 9月29日 御家稽古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 前家稽古、中川 勘三郎様、美濃 9月29日 小倉様 10月3日 唐水 10月3日 唐水 10月3日 唐水 10月3日 唐水 10月3日 唐水 10月3日 唐水 10月4日 神保伯書守様、中川勘三郎様 10月5日 大沢主馬様 10月6日 藤田勘助 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月8日 師家稽古 10月9日 宮沼様、加藤 様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月12日 師家稽古 10月13日 藤康本衛門様、美濃部筑前守 10月14日 小庭長 徹上 10月15日 御家代、御塚、小鹿 洗 10月16日 中川勘三郎様、小笠原弥八郎様 10月17日 師家稽古 10月18日 10月14日 10月19日 大沢玉馬様 10月20日 西脇東右衛門様 10月21日 <th></th> <th>0日22日</th> <th>十记于田祥</th> <th></th>		0日22日	十记于田祥	
9月24日 師家、西脇東左衛門、根岸英八 9月26日 師家稽古 9月27日 小倉様 9月27日 小倉様 9月29日 離殿様、根岸 英八郎様、田中唯 一様 度之進、浅田浅 三郎 9月29日 離殿様、根岸 英八郎様、田中唯 一様 度之進、浅田浅 三郎 9月29日 部筑前守様 9月29日 市家稽古、中川 勘三郎様、美濃 10月3日 農様 10月2日 小倉様 10月3日 馬様 10月4日 神保伯書守様、中川勘 三郎様 10月5日 大沢主馬様 10月6日 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月7日 田幸健信書守様 10月7日 田幸健信書守様 10月1日 小笠原弥八郎様 10月1日 小笠原弥八郎様 10月1日 小笠原弥八郎様 10月1日 小笠原弥八郎様 10月1日 小笠原弥八郎様 10月1日 丁笠原弥八郎様 10月1日 丁笠原弥八郎様 10月1日 丁ご原様 10月2日 「読者 10		9月23日	小倉様、菅沼 様、鵜殿 様、神保 伯耆守様	
9月26日 師家稽古 9月27日 一倉様 度之進、浅田浅三郎 9月28日 職殿様、根岸 英八郎様、田中唯 一様 夏之進、浅田浅三郎 夏之進、浅田浅三郎 9月29日 節家稽古、中川 勘三郎様、美濃 訪坊前守様 10月30日 藍坊前 守様 浅三郎 菊之進 夏之 進 10月3日 「酒様、西脇 東左衛門、大沢主 馬枝 「酒子吉 「酒子吉 10月3日 「「酒枝、西脇 東左衛門、大沢主 馬枝 「酒子吉 「酒子吉 10月5日 大沢主馬様 「酒石平吉 「酒 10月6日 「「」 「」 「」 「」 10月10日 師家稽古 「」 「」 「」 10月10日 師家稽古 「」 「」 「」 10月111 小笠原弥八郎様 「」 「」 「」 10月12日 師家稽古、中川 勘三郎様 「」 「」 「」 10月13日 西協東左衛門様、美濃 部筑前守 夏之進、勘助 「」 「」 10月14日 小笠原大主馬様 」 」 」 10月19日 大沢主馬様 」 」 」 10月14日			師家、西脇東左衛門、根岸英八 <u>郎様、美濃部筑前守様</u>	
9月27日 小倉様 寅之進、浅田浅 三郎 9月28日 小線 田岸 一様 9月29日 師家稽古、中川 勘三郎様、美濃 一 10月9日 根岸九郎兵衛様、美濃 部筑前守 様 浅三郎 菊之進 寅之 進 10月2日 小倉様 浅三郎 菊之進 寅之 進 10月2日 小倉様 浅三郎 菊之進 寅之 進 10月2日 小倉様 浅三郎 菊之進 寅之 進 10月2日 神保伯者守様、中川勘三郎様 九石平吉 10月6日 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 第 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 10月8日 師家稽古 1 10月1日 小笠原弥八郎様 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 10月1日 小笠原弥八郎様 1 10月11日 小笠原弥八郎様 1 10月12日 節家稽古、中川 第二郎様 1 10月13日 大沢主馬様 1 10月14日 方海寺能(真観院様法,小笠原弥八郎様 1 10月15日 根岸九郎兵衛様、 1 10月16日 中川勘三郎様 1 10月17日 西家稽古、田中 1 10月21日 市 1 10月22日 神屋相、根上 1 10				
9月28日 鵜殿様、根岸 英八郎様、田中唯 一様 9月29日 師家稽古、中川 勘三郎様、美濃 部気前守様 10月3日 根岸九郎兵衛様、美濃 部筑前守 様 10月2日 小倉様 道 菅沼様、西脇 東左衛門、大沢主 馬様 10月4日 神保伯耆守様、中川勘三郎様 10月5日 大沢主馬様 10月6日 藤田勘助 菊之進 浅 進 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月8日 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 10月9日 菅沼様、加藤 様 10月10日 師家稽古 10月11日 小笠原弥八郎様 10月12日 師家稽古 10月13日 横紫山 (11) 10月14日 済海寺能(真観院様法事) 10月15日 根岸九郎長宿様、釉殿 様 10月16日 四川勘三郎様 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様、葉濃郡前前市守様、猪八 10月21日 菅沼様、根岸 九郎兵衛様、雅 10				富う准 注田注 三郎
一様 一様 9月29日 師家稽古、中川勘三郎様、美濃 部筑前守様 10月3日 根岸九郎兵衛様、美濃 部筑前守 様 10月2日 小倉様 道 第三郎 菊之進 寅之 進 10月3日 菅沼様、西脇 東左衛門、大沢主 馬様 10月4日 神保伯耆守様、中川勘三郎様 10月5日 大沢主馬様 10月6日 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月8日 藤宿古 10月9日 菅沼様、加藤 様 10月1日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月1日 原原小和藤 様 10月1日 西藤家稽古 10月1日 西藤家稽古 10月1日 西藤東左衛門様、美濃 部筑前守 黄之進、勘助 10月15日 根岸九郎長復様、釉服 枝 10月15日 根岸九郎長復様、鵜殿 様 10月16日 四川勘三郎様 10月18日 三 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 菅沼様、根岸 九郎長衛前守 10月21日 市水、根本 10月22日 神保伯耆守様、美濃都筑前守様、猪八 10月23日 師家稽古、田中 唯一様 10月24日 師家稽古、中川			鵜殿様、根岸 英八郎様、田中唯	英之廷、戊田戊 二卯
9月29日 部筑前守様 10月朔日 根岸九郎兵衛様、美濃 部筑前守 様 10月2日 小倉様 10月3日 菅沼様、西脇 東左衛門、大沢主 馬様 10月4日 神保伯耆守様、中川勘三郎様 10月5日 大沢主馬様 10月6日 源日勘助 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月8日 師家稽古 10月9日 菅沼様、加藤 様 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 10月8日 師家稽古 10月9日 菅沼様、加藤 様 10月10日 師家稽古 10月11日 小笠原が八郎様 10月12日 師家稽古、中川 10月13日 横葉九郎兵衛様、編殿 様 10月14日 済海寺能(真観院様法事) 10月15日 根岸九郎兵衛様、編殿 様 10月16日 中川勘三郎様 10月18日 日 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇葉左衛門様 10月18日 日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇葉右衛門様、 10月21日 富沼様、和岸 九郎兵衛様、 10月22日 神保伯書守様、美濃郡筑前守				
10月奶日 様 10月2日 小倉様 浅三郎 菊之進 寅之 進 10月3日 菅沼様、西脇 東左衛門、大沢主 馬様 源兵衛 10月4日 神保伯耆守様、中川勘三郎様 源兵衛 10月5日 大沢主馬様 力石平吉 10月6日 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 第 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 藤田勘助 菊之進 浅 10月8日 師家稽古 10月10日 10月10日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月11日 10月12日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月11日 10月13日 検査(書守様) 第 10月14日 済海寺能(真観院様法事) 10月15日 10月15日 根岸九郎長衛様、釉度 10月16日 10月16日 中川勘三郎様 10月17日 10月18日 10月19日 10月19日 10月19日 大沢主馬様 10月19日 10月19日 大沢主馬様 10月19日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 10月21日 潜沼様、根岸 九郎長衛術様、猪八 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様、猪八 10月23日 御家稽古、田中 唯一様 10月24日 新海寺真観院様、加摩 遠江守衛 10月25日 御家宿古、中町 10月26日		9月29日		
10月2日 小酒林 進 10月3日 馬様		10月朔日		
10月3日 馬様 10月4日 神保伯耆守様、中川勘三郎様 源兵衛 10月6日 第田勘助 菊之進 浅 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 藤田勘助 菊之進 浅 10月8日 師家稽古 10月9日 10月9日 菅沼様、加藤 様 10月10日 10月10日 師家稽古 10月11日 10月12日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月11日 10月12日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月11日 10月13日 唐藤東左衛門様、美濃 部筑前守 様 10月15日 10月16日 中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月16日 10月16日 中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月19日 10月20日 西脇東左衛門様 10月19日 10月21日 節家稽古、田中 唯一様 10月22日 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 笔稽古 10月22日 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 10月24日 10月25日 師家稽古、田中 唯一様 10月25日 10月26日 市海寺真観院様、加藤 遠江守衛 10月26日 10月27日 菅沼様、北農 田中 唯一様 10月27日 10月28日 小支廃 瀧石衛門 10月28日 10月28日 10月28日 小美 藤源石衛門 10月28日 10月28日 10月28日 白溪石衛門 10月28		10月2日	小倉様	
10月5日 大沢主馬様 力石平吉 10月6日 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 藤田勘助 菊之進 浅 三郎 10月8日 師家稽古 10月9日 10月9日 菅沼様、加藤 様 10月10日 10月10日 師家稽古 10月11日 10月12日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月13日 10月13日 唐藤左衛門様、美濃 部筑前守 西藤東左衛門様、鶏酸 様 10月16日 10月16日 唐波左衛門様、鶏酸 様 10月16日 10月18日 10月18日 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 10月20日 西脇東左衛門様 10月20日 10月21日 菅沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 10月23日 師家稽古、中川 10月23日 前家稽古、中川 10月24日 新家稽古、中川 10月25日 前家稽古、中川 10月26日 清海寺真親府様、加藤 遠江守衛 10月27日 菅沼様、美濃郡坂市衛門 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 小笠橋 10月28日 三沼様、美濃			馬様	
10月6日 藤田勘助 菊之進 浅 10月7日 田中唯一樣、根岸英八郎樣 藤田勘助 菊之進 浅 10月8日 師家稽古 10月9日 营沼様、加藤 様 10月10日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月10日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 一 10月11日 小笠原弥八郎様 一 10月11日 御家稽古、中川 勘三郎様 一 10月11日 御家宿古、中川 勘三郎様 一 10月11日 御家宿古、中川 勘三郎様 一 10月11日 御家稽古 一 10月11日 御家宿古 一 10月11日 御家稽古 10月11日 10月11日 御家宿古 10月11日 10月11日 御家稽古 10月11日 10月11日 御家宿古 10月11日 10月11日 一 10月11日 御家宿古 10月11日 10月11日 御家宿古 10月11日 10月21日 御家宿古、田中 唯一様 10月22日 神塚伯耆守様、美濃部筑前守様 10月22日 神家宿古、田中 唯一様 10月25日 師家稽古、日 10月25日 師家稽古、田中 唯一様 10月26日 10月26日 六様, 海楽真観院様、加藤 遠江守衛 10月26日 10月27日 菅沼様、製殿 様、田中 唯一様 10月27日 菅沼様、美濃都筑省町 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 10月29日 菅沼様、美濃都顕石、町 10月21日 10月28日 10月2				
10月7日 田中唯一様、根岸英八郎様 藤田勘助 菊之進 浅 10月8日 師家稽古 10月9日 菅沼様、加藤様 10月10日 10万家稽古、中川勘三郎様 10月11日 10月11日 小笠原弥八郎様 10月11日 10月111日 10月111日 10月11日			入沉土馬悚	<u>刀石平古</u>
10月8日 師家稽古 10月9日 菅沼様、加藤 様 10月10日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月12日 師家稽古、神保 伯耆守様 10月13日 大鹿ヶ鹿(真観院様法事) 10月14日 済海寺能(真観院様法事) 10月15日 根岸九郎兵衛様、独慶 10月16日 中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月17日 師家稽古 10月18日 10月19日 10月21日 藤家宿古、四月 10月22日 神保伯耆守様、美 濃部筑前守様、猪八 10月22日 神保伯耆守様、美 濃部筑前守様 10月22日 神保伯耆守様、美 濃部筑前守様 10月22日 神保伯耆守様、美 濃部筑前守様 10月22日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月24日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月25日 師家宿古、四十 唯一様 10月26日 内、兵 藤源石衛門 10月27日 菅沼様、美 濃都坂市衛門 10月28日 小笠橋を渡谷 10月28日 小笠橋を渡谷 10月28日 小笠橋、田中 唯一様 10月28日 ご相像、大振 宇様 <th></th> <th></th> <th>田中唯一様、根岸英八郎様</th> <th></th>			田中唯一様、根岸英八郎様	
10月9日 营沼様、加藤 様 10月10日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月11日 小笠原弥八郎様 10月12日 師家稽古、中保 伯耆守様 10月13日 西脇東左衛門様、美濃 部筑前守 様 10月15日 根岸九郎兵衛様、義濃 部筑前守 様 10月15日 根岸九郎兵衛様、釉殿 枝 10月15日 根岸九郎兵衛様、加密 弥八郎様 10月15日 根岸九郎兵衛様、小笠原 弥八郎様 10月17日 師家稽古 10月17日 師家稽古 10月18日 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 館 10月22日 神媒伯耆守様、美 濃部筑前守様 10月22日 神塚伯倉守様、美 10月22日 神塚伯倉守様、美 10月22日 神塚伯倉守様、美 10月22日 神塚伯倉守様、東 10月22日 神塚伯倉守様、加藤 10月25日 師家稽古、中川 10月26日 市家稽古、中川 10月27日 菅沼様、和 10月28日 小笠様 10月27日 菅沼様、山田 10月27日 菅沼様、北 10月28日 小笠様、北 10月29日 首 法 10月29日				<u>(四)</u>
10月10日師家稽古、中川勘三郎様 10月11日小笠原弥八郎様 10月11日小笠原弥八郎様 10月11日小笠原弥八郎様 10月11日小笠原弥八郎様 10月11日小笠原弥八郎様 10月11日小笠原弥八郎様 10月11日和麦倉水像門様、美濃部筑前守 歳 10月15日根岸九郎兵衛様、釉殿枝 10月15日根岸九郎兵衛様、独臣、韓国、小郎様 10月15日根岸九郎兵衛様、小笠原 弥八郎様 10月16日中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月17日師家稽古 10月18日 10月19日大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 龍沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 郎 10月22日神保伯耆守様、美濃部筑前守様 10月22日神保伯耆守様、美濃部筑前守様 10月22日神保伯耆守様、美濃部気前守様 10月22日前家稽古、田中 唯一様 10月25日師家稽古、田中 唯一様 10月25日師家稽古、田中 唯一様 10月25日前家稽古、田中 唯一様 10月25日前家稽古、田中 唯一様 10月26日 内、長藤濃石衛門 10月27日 菅沼様、細酸様、田中 唯一様 10月28日 小笠原佐渡守様 10月29日 菅沼様、濃酸				
10月12日師家稽古、神保 伯耆守様 西脇東左衛門様、美濃 部筑前守 根 10月13日 人 10月14日 済海寺能じ 真観院様法事) 10月16日 法和主衛後、潮殿 様 10月17日 師家稽古 10月18日 10月19日 10月19日 大訳主馬様 10月19日 大訳主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 曹沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 郎 10月21日 菅沼様、根岸、九郎兵衛様、猪八 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 宅稽古 10月22日 神保伯耆守様、美濃部気前守様 10月23日 前家稽古、中川 勘三郎様 10月24日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月26日 清海寺真観院様、加藤 遠江守衛 内、兵 藤源右衛門 10月27日 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 小笠原佐渡守様		10月10日	師家稽古、中川 勘三郎様	
10月13日 核 西脇東左衛門様、美濃 部筑前守 核 寅之進、勘助 10月14日 済海寺能(夏観院様法事) 10月15日 根岸九郎兵衛様、鵜殿 枝 10月15日 根岸九郎兵衛様、鵜殿 枝 10月17日 師家稽古 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 菅沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 郎 10月21日 菅沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 郎 10月22日 神保伯者守様、美濃部筑前守様 宅稽古 10月22日 神保伯者守様、美濃部筑前守様 10月25日 師家稽古、中川 幽三郎様 10月26日 「清海寺真観院様、加藤 遠江守衛 内、兵 藤源右衛門 10月27日 菅沼様、鵜殿 様、田中 唯一様 10月28日 小笠原佐渡守様 10月29日 菅沼様、濃融 戦 振、田中 唯一様 10月29日 菅沼様、美濃郡筑前守様				
10月14日 法海寺能(真観院様法事) 10月15日 根岸九郎兵衛様、鵜殿 枝 10月16日 中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月17日 師家稽古 10月17日 師家稽古 10月18日 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 菅沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 10月21日 菅沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 10月22日 神保伯耆守様、美 濃部筑前守様 宅稽古 10月22日 神保伯耆守様、美 濃部筑前守様 10月24日 師家稽古、田中 唯一様 10月24日 師家稽古、田中 10月25日 師家稽古、田中 10月26日 市家稽古、田中 10月27日 菅沼様、加藤 遠江守衛 10月28日 小飯 遠近 10月29日 菅沼様、加藤 遠江守衛 10月28日 小笠原 佐渡守様 10月29日 首沼様、濃融設 様、田中 唯一様 10月29日 白沼様、美		10月12日	<u>助豕稽古、神保伯耆守様</u> 西脇東左衛門様、美濃部筑前守	宝之准 斯巴
10月15日 根岸九郎兵衛様、鵜殿 様 10月16日 中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月17日 師家稽古 10月18日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 置沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八郎 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 宅稽古 10月23日 師家稽古、中中 唯一様 10月23日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月24日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月26日 「清海寺真観院様、加藤 遠江守衛内、兵 藤源右衛門 10月27日 菅沼様、鵜殿 様、田中 唯一様 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 10月28日			<u>የ</u> *	與 之 進 、
10月16日 中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様 10月17日 師家稽古 10月18日 10月19日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 菅沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八 10月22日 神保伯者守様、美 濃部筑前守様 宅稽古 10月23日 師家稽古、田中 唯一様 10月24日 師家稽古、中川勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川勘三郎様 10月26日 師家稽古、田中 唯一様 10月27日 菅沼様、銀殿 様、田中 唯一様 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 小笠原佐渡守様				
10月18日 10月19日 10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 館沼様、根岸九郎兵衛様、猪八 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 宅稽古 10月23日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月24日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川 10月25日 師家稽古、中川 10月25日 前家稽古、中川 10月25日 前家稽古、中川 10月25日 前家稽古、中川 10月25日 前家稽古、中川 10月25日 前家稽古、中川 10月26日 六兵 藤源右衛門 10月27日 菅沼様、建設 近年) 10月28日 小笠原佐渡守様 10月29日 官沼様、美濃部筑前守様		10月16日	中川勘三郎様、小笠原 弥八郎様	
10月19日 大沢主馬様 10月20日 西脇東左衛門様 10月21日			師家稽古	
10月20日 西脇東左衛門様 10月21日 菅沼様、根岸九郎兵衛様、猪八郎 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 10月23日 師家稽古、田中唯一様 10月24日 師家稽古、中川勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川勘三郎様 10月26日 師家稽古、中川勘三郎様 10月27日 菅沼様、龜殿様、田座唯一様 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 「笠保佐渡守様			十记于匡祥	
菅沼様、根岸、九郎兵衛様、猪八 郎 節3 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 10月23日 師家稽古、田中唯一様 10月24日 師家稽古、中川勘三郎様 10月24日 師家稽古、中川勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川勘三郎様 10月26日 市海寺真観院様、加藤 遠江守衛 内、兵 藤源右衛門 10月27日 菅沼様、建設設有衛門 10月28日 小笠原佐渡守様 10月28日 宮沼様、美濃部筑前守様				
10月22日 神保伯耆守様、美濃部筑前守様 宅稽古 10月23日 師家稽古、田中 唯一様 10月24日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月26日 市家稽古、中川 勘三郎様 10月26日 市家稽古、中川 勘三郎様 10月27日 菅沼様、鶴殿 様、田中 唯一様 10月27日 菅沼様、義殿 様、田中 唯一様 10月28日 小笠原佐渡守様 10月29日 菅沼様、美淵密筑前守様			菅沼様、根岸 九郎兵衛様、猪八	
10月23日 師家稽古、田中 唯一様 10月24日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月25日 師家稽古、中川 勘三郎様 10月26日 清海寺真観院様、加藤 遠江守衛 内、兵 藤源右衛門 10月27日 菅沼様、龜殿 様、田中 唯一様 10月27日 菅沼様、重命守様 10月29日 菅沼様、美部筑前守様				
10月24日師家稽古、中川勘三郎様 10月25日師家稽古 1月26日 清海寺真観院様、加藤遠江守衛内、兵藤源右衛門 10月27日 10月27日 10月27日 10月28日 小笠原佐渡守様 10月29日 百沼桃、美麗部筑前守様		10月23日	師家稽古、田中 唯一様	
10月26日 清海寺真観院様、加藤 遠江守衛 内、 <u>兵 藤源右衛門</u> 10月27日 菅沼様、鵜殿 様、田中 唯一様 10月28日/小笠原佐渡守様 10月29日 菅沼様、美 濃部筑前守様		10月24日	師家稽古、中川 勘三郎様	
10月27日 菅沼 <u>様、鵜殿</u> 様、田中 唯一様 10月28日小笠原佐渡守様 10月29日 菅沼様、美 濃部筑前守様		10月25日	<u>帥家稽古</u> 清海寺真観院様、加藤 遠江守衛	
10月28日 小笠原佐渡守様 10月29日 菅沼様、美 濃部筑前守様				
10月29日 菅沼様、美 濃部筑前守様				
10月晦日中川勘三郎様		10月29日	<u>营沼様、美濃部筑前守様</u>	
		10月晦日	中川勘三郎様	

	参上 🛛	訪問
	<u>鵜殿様、田中唯一様</u>	
11月2日	加藤新五左衛門殿	平吉、勘助
	<u>大沢主馬様</u> 神保伯耆守様	
11月5日	山階滝五郎稽古	
	日吉重太郎	
11月7日		
11月8日	加藤新五左衛門殿	
	大沢新六郎殿 師家稽古、中 川勘三郎様	
11月11日		平吉
	中川勘三郎様	
11月13日	徳太郎	
11月14日	弓丁、西脇東 左衛門、小笠原佐 渡守様	
11月15日	神保伯耆守様、鵜殿 様、田中 唯	堀尾半大夫 山下源四
11月16日	一様 中川勘三郎様	
11月17日	大沢主馬様、田中唯一様、鵜 殿	
11月18日	加藤様	
11月19日	狭八郎 相岸 五郎氏衛祥 羊 漕	
11月20日	<u>首招様、西脇東左衛門</u>	
11月21日	神保伯耆守様	
	加藤新五左衛門殿	
11月23日		
11月24日		
11月25日	鷺伝右衛門宅	
	師家稽古	
11月27日	師家稽古	
11月28日	師家稽古	
11月29日	薩州様能	
12月朔日		
12月2日		
12月3日		
12月4日		
	田安御殿能	
12月6日	日吉猪八郎宅	
12月7日	加藤新五左衛門殿	
12月8日	神保伯耆守様、根岸 九郎兵衛 様、美濃部筑前守様	
12月9日	中川勘三郎様、小笠原佐渡守様	
12月10日	師家、山階滝 五郎稽古	
12月11日		
	師家稽古	
12月13日		
12月14日		
12月15日		
12月10日	<u>師家申合</u> 師家稽古	
12月18日	御本丸中奥能	
12月19日	<u>師家稽古、小 倉</u> 様、芦 屋様	
12月20日	師家稽古、小 倉様、芦 屋様 師家稽古、美 濃部近江守様、神 保伯養守様	
	師家稽古、美 濃部近江守様、神 保伯耆守様 西御丸中奥能	
12月21日	西御丸中奥能	
12月21日 12月22日	本但當立惊 西御丸中奥能 遠藤但馬守様、曲 淵求馬様	
12月21日 12月22日 12月23日	西御丸中奥能	
12月21日 <u>12月22日</u> 12月23日	西御丸中奥能 遠藤但馬守様、曲 淵求馬様 加藤新五左衛門殿 小笠原弥八郎様、田中 唯一様	
12月21日 12月22日 12月23日 12月24日	西御丸中奥能 遠藤但馬守様、曲 淵求馬様 加藤新五左衛門殿 小笠原弥八郎様、田中 唯一様	
12月21日 12月22日 12月23日 12月24日 12月25日 12月26日 12月26日 12月27日	西個丸中奧能 透藤但馬守樣、曲 淵求馬樣 加藤新五左衛門殿 小笠原弥八郎様、田中 唯一様 芦屋様	
12月21日 12月22日 12月23日 12月24日 12月25日 12月25日 12月26日 12月27日 12月28日	西個立中奧能 遠藤但馬守様、曲 淵求馬様 加藤新五左衛門殿 小笠原弥八郎様、田中 唯一様	
12月21日 12月22日 12月23日 12月24日 12月25日 12月26日 12月26日 12月27日	西御丸中奥能 遠藤但馬守様、曲 淵求馬様 加藤新五左衛門殿 小笠原弥八郎様、田中 唯一様 芦屋様 本多越中守様	

興行は、六番から七番の演目を各流で分担している のが普通である.明治になってできた「共用の」能 楽堂において、各流派が共演するのは不自然なこと ではなかった.

それはやがて,流派ごとに舞台を建設するように なるのである.明治25年(1892),観世清廉は飯田町 に舞台を,明治30年(1897),宝生会猿楽町舞台,明 治33年(1990)観世会大曲舞台,大正4年(1915)牛込 富久町に金剛宗家舞台,大正7年(1918),細川侯爵 邸舞台で金春流の月次会が始まるなど,流派の独立 性が各流の舞台開設とともに強まっていく.

明治になって失職した能役者たちは,舞台も失った.武家階級が消え,侍屋敷の管理もされなかったためだろうか.後述するように梅若実の日記をみるかぎり,官軍が江戸に進駐した最初の一年間は能の興行は皆無である.わずかに,11月になってようやく自宅の舞台で袴能をはじめたのみである⁵²⁾.しかしながら梅若実の明治2年(1869)時の日記をみると,前年ははたと止んだ能興行もいくつかの屋敷で行われるようになっている.

近代能楽堂の建設を建築史的に研究する奥富は, この青山御所舞台を「木子文庫」による分析から, 正面に玉座があり,その他白州には床几が並べられ たという.天皇以下洋装であり,したがって椅子席 による観覧が屋内で始まったのがこの青山から始ま ったと示唆する⁵³⁾.

能が旧貴族階級からスポンサーを別に求め始めた とき,音を発する場の変化がみられた.能の音は屋 敷や庭園内<庭>にあり,それらが市中に分散して いた.能役者達はそれらに出かけて行って演じた. それらが武家階級の消失とともに,再編され,能役 者が流派ごとに独立して興行する場<座>として, 独自の能舞台をもつようになっていったのではない か.能の音は分散<庭>から集中<座>への道を辿 ることになったと考える.

5. まとめ— < 庭 > から < 座 > へ

近世の都市における聴覚的景観の発生源として, 能の音とその舞台の空間的構成ならびに能役者の動 態について事例をあげて史料的に考察した.近世の 庭,大名屋敷における舞台は,白州の上にある構造 物であり,屋外で昼間,音を発する装置であった. そして,江戸市中の屋敷内の音は外に漏れる機会も 考えられ,かつ時に町人が多く観覧した.そうした 能舞台を武家屋敷がもち,そこへ能役者が稽古や能 組のために通った.つまり,近世の能音は様々の屋 敷の中の<庭>において発生していた点在する数多 くの音であった. 本論で事例検証できたのはこの点までである.その後,近代になり,このシステムが消滅し能役者は 彷徨う.そこで起きる能楽復興運動の行き先は,消 えた屋敷内の舞台から,流派ごとの舞台への転換で あったようだ.流派ごとに舞台を築き,そこで能を 演じ,客が観覧に訪れる.まさに岩倉がベルサイユ で見たオペラ座のように<座>をつくるのである. 言い換えれば,<座>にでかけなければ能の音に接 することはない.またそれは集中した<座>である 流派ごとの舞台の音になる.

本論の課題と展望を以下にあげる.

- 近代能空間の閉鎖化:屋外にあった能舞台が屋 内の能舞台となっていく過程は、共用していた 舞台が流派ごとの舞台に変わっていく過程でも ある.ここに能における近代家元制の成立の問 題をはらんでいると考える.
- 2. 受容する側の実態が不明であるが、役者のスポンサーが武家から素人へ、給金から弟子の出す 稽古料に変換することで音を聞く対象も変わってきた.これも近代家元制と関連する事項と考える.
- 新能の演出は夜の興行としたもので近世にはほ とんどない.近世は夜は興行を原則として行わ ない.薪能や屋内におけるほの暗い陰翳を礼賛 するのは近代的視線であり,近代のどこかで価 値を付着された可能性がある景観である.
- 武家の能だけでなく、また京都のように町方の 役者のみならず、辻能という形でいわば大衆演 劇のような形のものが流行していた. 鏡花、虚 子、子規の目撃した「照葉能」と呼ばれたもの もそのひとつである. 町人や農民が何を本当に 観て聴いていたのか、課題が残る.

参考文献

- 網野善彦「中世「芸能」の場とその特質」,『演者 と観者』所収,日本民俗文化体系,小学館,昭和 59 年
- 2) 『御後園諸事留帳』岡山大学附属図書館池田家文庫,神原邦男翻刻,吉備人出版,1999年,享保年間藩主池田継政の江戸参府中,御後園(現在の後楽園)は町人にしばしば参観させている.
- 3) R. Murray Schafer(ed),1978, The Vancouver Soundscape, A.R.C.Publications, Vancouver
- アラン・コルバン『音の風景』小倉孝誠訳,藤原 書店,1997年
- 5) 渡辺京二『逝きし世の面影』平凡社,2005年
- 6) 中川真『平安京 音の宇宙』平凡社, 2004年
- 7) 五島邦治「御戸代神事と猿楽能」『賀茂のもり・ やしろ・まつり』思文閣出版,2006年所収
- 8) 宮本圭造『上方能楽史の研究』和泉出版, 2005

年 9) 能勢朝次『能楽源流考』岩波書店,昭和13年 10) 神原邦男『大名庭園の利用の歴史』, 吉備人出版, 2003年? 11) 西脇藍 『岡山藩主池田綱政と「能」』 吉備人出版, 2005年 12) 『梅若実日記』, 八木書店, 2003年 13) 林原美術館の池田綱政に関する文書は, 2007 年夏 に神原邦男が調査に入り、その成果の一部が同年10 月に同所で企画展「池田綱政」として公開された. 14) 京都大学人文科学研究所共同研究「近代古都研 究」における神戸市外国語大学 長志珠絵氏の指摘 による. 15) 高濱虚子『能楽遊歩』,昭和17年6月 丸岡出 版社 16)谷崎潤一郎『陰翳礼讃』昭和8年,中公文庫所収 17) 『江戸城御本丸御表御中奥御殿向御櫓御多門共 惣絵図』東京市史稿所収 18) 「播州姫路城図」中根家蔵,よみがえる日本の 城四 姫路城, 学研, 2004 年所収 19) 「高津原屋敷図」佐賀県立図書館蔵,よみがえ る日本の城二 肥前名護屋城,学研,2005年所収 20) 「二条御城城中絵図」中井家蔵,よみがえる日 本の城一九 二条城,学研,2005年所収 21) 藤岡通夫 『京都御所』, 中央公論美術出版, 二一 項「寛永度御造営内裏指図」,二七頁「延宝度御造営 内裏指図」 22) 『松山城』, 松山市役所, 昭和四五年. あるいは 「松山城三ノ丸図」松山市子規記念資料館蔵 23)神原邦男『大名庭園の利用の歴史』吉備人出版, 2003年, 324頁 24) シテは能の主役、ワキは脇役でシテと問答する役 柄が多い.ツレはシテの連れで登場する.その他, 狂言方が物語の進行を語ったり、ワキとの掛け合い をこなす. 囃子方は笛, 小鼓, 大鼓, 太鼓で構成さ れる. 25) 岡山大学附属図書館蔵池田家文庫 元禄十三年 辰三月御改 『御城内御絵図』 26) 『御後園地割御絵図』正徳年間,より能舞台周辺 の絵図. 藩主の居所であった延養亭近くにあった. 岡山大学附属図書館池田家文庫蔵 T-121-1,2 27) 岡山大学附属図書館蔵池田家文庫 宝永四年九 月二十一日 『日次記』 28)池田綱政筆『諷形図』は林原美術館蔵. 『岡山後 楽園史』資料編,平成13年,岡山県郷土文化財団に 掲載 29) 神原邦男『大名庭園の利用の歴史』641-671頁, 池田綱政の御後園における能の興行の拝見者数と御 能組

30) 『御後園諸事留帳』享保十七年十月十七日,同

年十二月十七日,神原邦男編,吉備人出版,1999 年 翻刻版

31)「御後園地割御絵図」岡山県郷土文化財団所蔵, 『岡山後楽園史』,平成13年掲載

32) 宝生九郎の懐古談,明治 38 年に江戸城町入能は 中入りで町人は交代となった.池内信嘉『能楽盛衰 記上巻』196頁,東京創元社,平成4年復刻版

33)「古里を思ふ後楽園」『内田百閒全集第六巻』113頁,講談社,1971年

34) 岡山大学附属図書館蔵池田家文庫 延宝九年辛 酉二月十二日「御老中御招請日記 初日之記」, C-6,54

35) 「江戸御屋敷向屋敷絵図」元禄十六年, 岡山大 学附属図書館池田家文庫蔵

36) 宝永七年十一月十六日「御老中御招請日記」岡山 大学附属図書館池田家文庫所収.

37)池内信嘉『能楽盛衰記』附録「徳川家町入能之図」 には正面客席と能舞台階の間の白洲空間は赤い毛繊 でつながれ両脇に武士が数名着座している.

38) 『嘉永・慶応江戸切絵図』人文社, 1995年

39) 『梅若実日記』,第七巻,八木書店,2003年所収 「林和則の解題6頁」

40) 『梅若実日記』, 第一巻, 八木書店, 2003年,「嘉 永三年」

41) 『梅若実日記』,第一巻,八木書店,2003年,「安 政五年」

42)小野芳朗『<清潔>の近代』,講談社選書メチエ,

1997 年. 71 頁. 「諸宗院死者書上写」を引用した数 字. 26 万人は江戸人口の4分の1にあたり過大であ るとされる.

43) ポンペ・ファン・メールデルフォールト『ポンペ 日本滞在見聞記』沼田次郎・荒瀬進訳,雄松堂出版 「新異国叢書」,1969年

44)『梅若実日記第一巻』,八木書店,2003年,「明治 元年」

45) 『梅若実日記第二巻』明治元年8月13日

46) 『梅若実日記第二巻』明治元年8月13日,朝廷 へ奉公願を喜多六平太以下28人が提出した.

47) 『梅若実日記第二巻』, 明治2年7月29日

48) 久米邦武歴史著作集 第五巻 吉川弘文館 第 一編第十「能楽の過去と将来」明治四四年

49) 『梅若実日記第三巻』明治9年4月4日

50) 『梅若実日記第三巻』明治11年7月5日

51) 『梅若実日記第三巻』明治12年7月8日

52) 『梅若実日記第二巻』明治元年11月10日以降, 梅若宅で稽古能が始まる.

53)奥冨利幸「明治初期における能楽堂誕生の経緯」 日本建築学会計画系論文集,第565号,337-342, 2003年3月

(2007.10.9 受付)

Sound of NOH Play as a Soundscape in Urban Area

-Pre History on Exchange from <Garden> to <Theater>

Yoshiro ONO

The sound of Noh play such as flute, drums and songs were played in the Noh stages in Daimyo gardens and Samurai houses. In this paper, the structure of the Noh space as the stage is focused as the source of the sound. The Noh stage in Koraku-en garden, Okayama, and the stage in the garden and Daimyo houses are discussed as the examples by using historical archives. The documentation of Noh player in Edo city is formed on the sound in the play and exercise.